

「東播磨地域ビジョン2050（案）」への県民意見と県の考え方

意見募集期間：令和3年12月27日～令和4年1月14日

意見等の提出件数：6件（3人）

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
<p>第8章</p> <p>主な取組</p> <p>「防犯力の向上」 (p 33)</p> <p>「多様な人々が混じり合い支え合い認めあう社会」 (p 34)</p> <p>「デジタル技術の活用」 (p 38)</p>	<p>意見①「防犯力の向上」について、参考事例の犯罪発生予防についての「見守りカメラ」を導入は効果的だと思う。加えて警察官の地域巡回や町内会の見回りを強化するのも良いと考える。</p> <p>意見②「パートナーシップ制度」を東播磨地域全体で整備するべきだと考える。住民全員が、自分らしい暮らしができる快適な地域を真の意味で実現するためには、LGBT等多様性に寄り添った制度を整備することが必要不可欠なのではないか。</p> <p>意見③「デジタル技術の活用」で、小中学生に携帯端末を持たせ、親と位置情報を共有するもの（加古川市の施策で見守りサービスなど）は、安心安全で子育てができる環境づくりと治安維持に貢献できると考える。</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>1</p>	<p>【記載済み】</p> <p>同じ項目の参考事例として、「犯罪発生抑制のため、住民、行政、関係機関が、住民であれば声かけや見守り活動など各々の役割を果たしながら連携を図り、一体となって取り組む」と記述しており、警察官は行政組織に含まれています。</p> <p>【記載済み】</p> <p>同じ項目の参考事例として、「パートナーシップ制度など多様な生き方を支える制度や環境を整備する」と記述しています。</p> <p>【記載済み】</p> <p>同じ項目の参考事例として、「県、市町、関係機関の連携により、ICTやAI等の新技術やデータを活用しながら地域課題を解決し、安全安心で快適な利便性の高い社会サービスを提供するスマートシティの取組を推進する」と記述しています。</p>

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
<p>第9章 ビジョン実現のために</p>	<p>意見④広報の仕方について 若者に普及しにくい原因について 若者と行政の間に乖離が生じている。 解決策 (1) SNSを更に駆使して若者に行政を身近な存在として感じてもらう。 Instagram や YouTube、Twitter で広報活動をただ推進していくのはあまり効果が望みにくいと考える。理由はタイトルやサムネイルを見て動画を開きたいと思いにくいから、が主な要因と考えられる。そこで「アイドルや著名人、企業とも協力し、目を通して貰う数を増加させる」を主たる目的とする。著名人と協力し、最初の「難しそう、興味がない、見てどうするの」から「面白そう、気になる」に変えていくことで SNS を通じて若者と行政の業務が繋がりやすくなるを考える。 (2) 地域政策の問題について教育機関と連携して、大学、高校や中学校の授業の一環として導入する。自分が在学していたときはあまり地域政策についての授業があまりなかったもので、これを増加することで早い段階から市民一体となって地域を作っていく意識を芽生えさせる。</p>	<p>3</p>	<p>【ご意見を反映】 「第9章 ビジョン実現のために」で、「SNSの発信により」と記述を加えました。 【今後の参考】 ビジョンが確定後、ビジョンを実現するため、若者へのビジョン普及について検討する際には、ご提案頂いた解決策(1)、(2)について参考にさせていただきます。</p>

	<p>意見⑤若者に東播磨について興味を持ってもらうためには、もっと分かりやすくSNSを用いて宣伝したり、積極的に学校や大学でのまちづくりに関する授業として講演をしたり、若者の生活に食い込んでいくことが重要。その土地に関係のない若者と、その土地出身の若者を根付かせることは違うのかもしれないが、そのまちの魅力を知って、住みたいと思わせるプロデュースは共通していると思うので、例えば広報活動に学生が参加するような企画も面白いと思う。</p> <p>最近は都会に疲れた大人が、新しい働く場所としてのどかな地域に流れる傾向がある。若者を引き付けることも東播磨の活力に繋がるので重要だと思うが、現役で仕事を頑張る大人を引き込むことも活性化に繋がるのではないか。</p>	<p>【ご意見を反映】</p> <p>「第9章 ビジョン実現のために」で、「SNSの発信により」と記述を加えました。</p> <p>【今後の参考】</p> <p>ビジョンが確定後、ビジョン実現のため、若者、また現役世代を中心にしたビジョンの普及、広報活動の取組を検討する際、ご意見を参考にさせていただきます。</p>
	<p>意見⑥新ビジョンを様々な主体、特に若者たちに発信し考えるきっかけを作るためには、SNSを駆使すべきだと考える。例えば、インスタグラムを使い、東播磨の一押しスポットや宣伝したいことを投稿することで、若者の目に留まりやすくなる。</p>	<p>【ご意見を反映】</p> <p>「第9章 ビジョン実現のために」で、「SNSの発信により」と記述を加えました。</p> <p>【今後の参考】</p> <p>ビジョンが確定後、ビジョンの実現のため若者世代を中心にビジョンの普及、広報活動の取組を検討する際、ご意見を参考にさせていただきます。</p>